

PFI (BTO方式)		大久保浄水場排水処理施設等整備・運営事業《埼玉県》		
人口: 約732万人				
<p>■ 概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模浄水場排水処理施設のPFI事業であり、排水処理施設や電源設備の仕様を事業者提案として効率的に整備。発生土の有効活用を実現している。 				
<p>■ 事業実施の経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> 大久保浄水場は、16市1町(約367万人(平成19年3月31日当時))に対する水道用水の供給や、108事業所に対する工業用水道水の供給を行っている我が国で第4番目の大規模浄水場である。排水処理施設については経年劣化が著しく、安定給水のためには施設の更新が急務とされていた。 				
<p>■ PPP/PFI 手法導入のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業手法として、サービスの価値を最大にし、コストを最小限に抑えることが求められており、PFI手法の導入可能性調査を行った結果、その有用性が確認できたことから、老朽化が進んでいた非常用電源施設と合わせ、PFI手法により整備することとなった。 				
《事業データ》				
施設規模	敷地面積: 約22,000㎡			
	上水浄水能力: 1,300,000m ³ /日、工水浄水能力: 93,000 m ³ /日 (上工ともに計画平均濁度30度時)			
	排水処理施設・非常用電源施設			
事業方式	PFI (BTO方式)			
事業類型	サービス購入型			
事業期間	平成16年12月～平成40年3月(約23年) (設計・建設: 約3年 / 維持管理・運営: 約20年)			
官民の役割分担	【公共の業務】			
	<p>—</p> <p>【民間事業者の業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の設計・建設 維持管理 運營業務(排水処理、発生土有効利用、非常電源供給、常用電源供給) <p>〈業務分担のポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 発生土の有効利用を民間事業者の業務範囲に含めた。 			
事業費	約 242 億円(税抜、契約金額)			
VFM	特定事業選定時	12.1%	事業者選定時	38.9%
事業者	◎は代表企業 ◆は地元企業			
応募グループ	4グループ			
スケジュール	平成15年10月	実施方針公表		
	平成15年12月	特定事業の選定		
	平成16年3月	入札公告		
	平成16年11月	落札者決定		
	平成20年4月	供用開始		
活用した制度等	—			
<p>■ PPP/PFI 手法導入の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 正方形の汚泥濃縮槽の採用 従来手法では円形に整備されていた汚泥調整池を正方形に整備することにより、汚泥濃縮槽用のスペース 				

を縮減し、製品ヤード等のスペースを広く確保することを可能とした。

●コジェネレーションによる常用電源供給施設の提案

・常用電源については任意提案であったが、発電とともに発生する熱を汚泥水の加温や発生土の乾燥に利用し、エネルギーの効率的利用に資するコジェネレーションシステムによる常用電源供給施設が提案された。なお、提案審査に当たり、常用電源供給施設が提案された場合には、入札価格に電力削減効果額等を反映させることとした。

●短時間脱水装置の提案

・従来方式では、主として24時間の長期サイクルで行われていた脱水を40分の短期サイクルとし、状況に応じて柔軟かつ効率的な運用を可能とした。

●発生土の有効活用の提案

・発生土の有効活用策として、脱水された発生土を粒化して園芸用土として利用することや、乾燥させてグラウンド整備用土として利用することが提案された。

■地域経済の活性化

・特別目的会社を県内に設置することによる地域人材の雇用促進や、事業の全期間における県内企業への積極的な発注により、地域経済への貢献が提案された。



(出所)埼玉県公表資料

■参考URL

・(埼玉県HP) <https://www.pref.saitama.lg.jp/c1305/90d00-02setubi.html>